

# 学内広報

for communication across the UT



特集：知の頂点はDiversity(多様性)から！  
～東京大学の男女共同参画活動～

2009.5.25

No.1386

# 知の頂点は Diversity (多様性) から！

～東京大学の男女共同参画活動～

今回は東京大学における男女共同参画活動の特集をお送りします。国籍・性別にとらわれず、多様な人材による知の創造と教育、社会との連携を通じて、東京大学は、日本の未来、世界の未来に対する公共的な責任を果たすべき時期を迎えています。そのためには、男女共同参画及び次世代育成支援のための環境整備が重要と考えています。

## 《経緯と目的》

東京大学では、「東京大学アクション・プラン2005-2008」の2006年改訂版において「次世代育成支援及び男女共同参画のための環境整備」を掲げています。その中で、本学の女性研究者の割合が低いことを鑑み、優秀な女性研究者への進路を選択し、研究継続することを促進するための全学的かつ包括的な支援や取組が必要であるとしています。

2008年5月現在の東京大学常勤女性研究者の割合は約9%と、世界トップレベルの諸大学に比べて極めて低く、女性研究者の参画加速が必要な状況にあります。2007年に採択された文部科学省科学技術振興調整費事業「東大モデル“キャリア確立の10年”支援プラン」では、2010年3月までに常勤研究者の女性

採用比率を25%以上とする等の数値目標を定めました。

また、2008年、学士会館にて開催された「七大学男女共同参画・女性研究者支援部門合同シンポジウム」では、七大学の総長が列席し、「U7“男女共同参画”に係る共同宣言」を発表しました。この共同宣言の理念に基づき、東京大学では行動に移すための宣言を作成することにしました。

東京大学は、機会均等に根ざした豊かな多様性を確保することにより、時代の先頭に立ち世界の知の頂点を築くことを目指しています。その一環として、「男女共同参画加速のための宣言」を行い、3つの項目を実行することにより、女性研究者の活躍を加速していきます。

## 男女共同参画加速のための宣言

東京大学は、男女共同参画を加速するため、「U7“男女共同参画”に係る共同宣言」(2008.10.1)に基づき、以下のとおり行動する。

1. 教員・研究員を公募する際に、女性の応募を歓迎する旨を明示する。
2. 公正に行った評価に基づき、女性研究者を積極的に採用する。
3. 仕事と生活の調和を目指し、公的な会議は原則として17時以降行わない。

2009年3月3日 東京大学

## コラム

### ーポジティブ・アクション(積極的改善措置)ー

1967年アメリカで、白人男性の雇用が優遇されていたため、黒人等のマイノリティーへの差別を積極的に是正する措置(行政命令)の“アファーマティブ・アクション”がスタートしました。人口の半分を占める“女性”が雇用の面でマイノリティーであるとして、性が追加されたのは翌年のことです。“ポジティブ・アクション”という言葉は、同じ意味で現在各国で使われています。日本では、1999年に制定された「男女共同参画社会基本法」の中で“積極的改善措置(英訳: positive action)”という用語で表記されています。

ポジティブ・アクションは、内容により3つのタイプに区別されています。厳格型には、一定の人数枠を設定する「クォータ制」や「プラス・ファクター方式」が、中庸型には、何年までに何%と数値目標を挙げる「ゴール・アンド・タイムテーブル方式」が、穏健型には、仕事と育児等の両立のための環境整備なども含まれます。なお、教員に占める女性比率が低い場合等、女性を優先して採用することは、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」(昭和47年法律第113)で特例として認められています。



【朝日新聞】(2009年4月3日)



## ～女性研究者向けコミュニティ・サイトを開設しました～

2009年2月17日(火)に男女共同参画室・オフィスのHP内に東大女性研究者コミュニティ・サイト フルート(FREUT)を開設しました。

このサイトは、「研究室の中には教員も学生も男性が多くて、ちょっとした相談ができるような女性が周囲にいない!」という声や「妊娠、出産、子育てについて学内で情報交換できる場所がないかしら?」「就職しようか、それとも大学院に進学しようか。先輩の意見を聞いてみたい!」などの声に答えて、自由な意見交換の場を提供することを目的に作られた電子会議室です。

フルート(FREUT)とは、「Female REsearchers' Community of the University of Tokyo」の頭文字から名づけられましたが、東大の女性研究者ひとりひとりが、大きな実(fruit)を結んで一流の研究者になれるように、という意味も込められています。東大の女子学生および女性研究者だけがログインすることが可能で、FREUT内での投稿やコメントは本名ではなくニックネーム(匿名)でやりとります。

出産からの研究復帰時期や育児支援室の情報など、興味深いやりとりが展開されています。

フルートを通じて、多くの部局や研究施設に点在する女子学生や女性研究者が不安や悩みを解消し、元気をもらって自己実現やキャリアアップを目指してくれると期待しています!!

※本サイトへの登録は、東京大学の女性教員・女性研究者・女子学生であることを確認するため、共通IDの入力が必要です。教職員証または学生証に記載されていますが、東大の教職員証を支給されていない研究員等の身分の女性研究者は、所属する部局の事務担当にご自分の共通ID番号をご確認下さい。



<http://freut.u-tokyo.ac.jp>



## ～女性研究者のネットワーク構築のための“座談会”を開催しています～

学内のロールモデルとなる女性研究者を囲んで、ざっくばらんに意見交換を行い、学内の女性研究者ネットワークを広げることを目的としています。毎回、お弁当やお茶菓子を食べながら、和気あいあいとした雰囲気で行われています。どうぞ一度参加してみてください!

- 第1回  
2008年7月7日(月)11:00～13:00 於:工学部列品館  
『女性研究者としてのキャリア形成』  
講師:野崎京子教授(工学系研究科化学生命工学専攻)
- 第2回  
2008年9月4日(木)17:00～19:00 於:医学系研究科セミナー室  
『医学系研究科における男女共同参画を考える』  
講師:野村幸世准教授(医学系研究科外科学専攻)  
菊池かな子准教授(医学系研究科外科学専攻)
- 第3回  
2009年5月19日(火)16:00～18:00  
於:駒場キャンパスアドミニストレーション棟3階会議室  
『女性研究者としてのキャリア形成(駒場キャンパス編)  
～海外での研究を通じてステップアップする～』  
講師:井坂理穂准教授(総合文化研究科地域文化研究専攻)  
桑野玲子准教授(生産技術研究所都市基盤安全工学  
国際研究センター)



### 【今後の予定】

- 第4回  
2009年7月1日(水)11:00～13:30  
於:物性研究所6階第2会議室  
『女性研究者としてのキャリア形成  
～柏キャンパスの女性研究者ネットワークを作ろう～』  
講師:高数縁教授(気候システム研究センター)  
山室真澄教授(新領域創成科学研究科環境学  
研究系自然環境学専攻)  
森初果准教授(物性研究所新物質科学研究部門)

# ～東京大学キャンパス内保育園－7園体制の整備が完了しました～

2008年10月全学対象保育園に移行

医科学研究所附属病院の看護師のお子さんも受け入れるなど、白金キャンパス独自のニーズにも応じています。(対象年齢:6週～就学前)



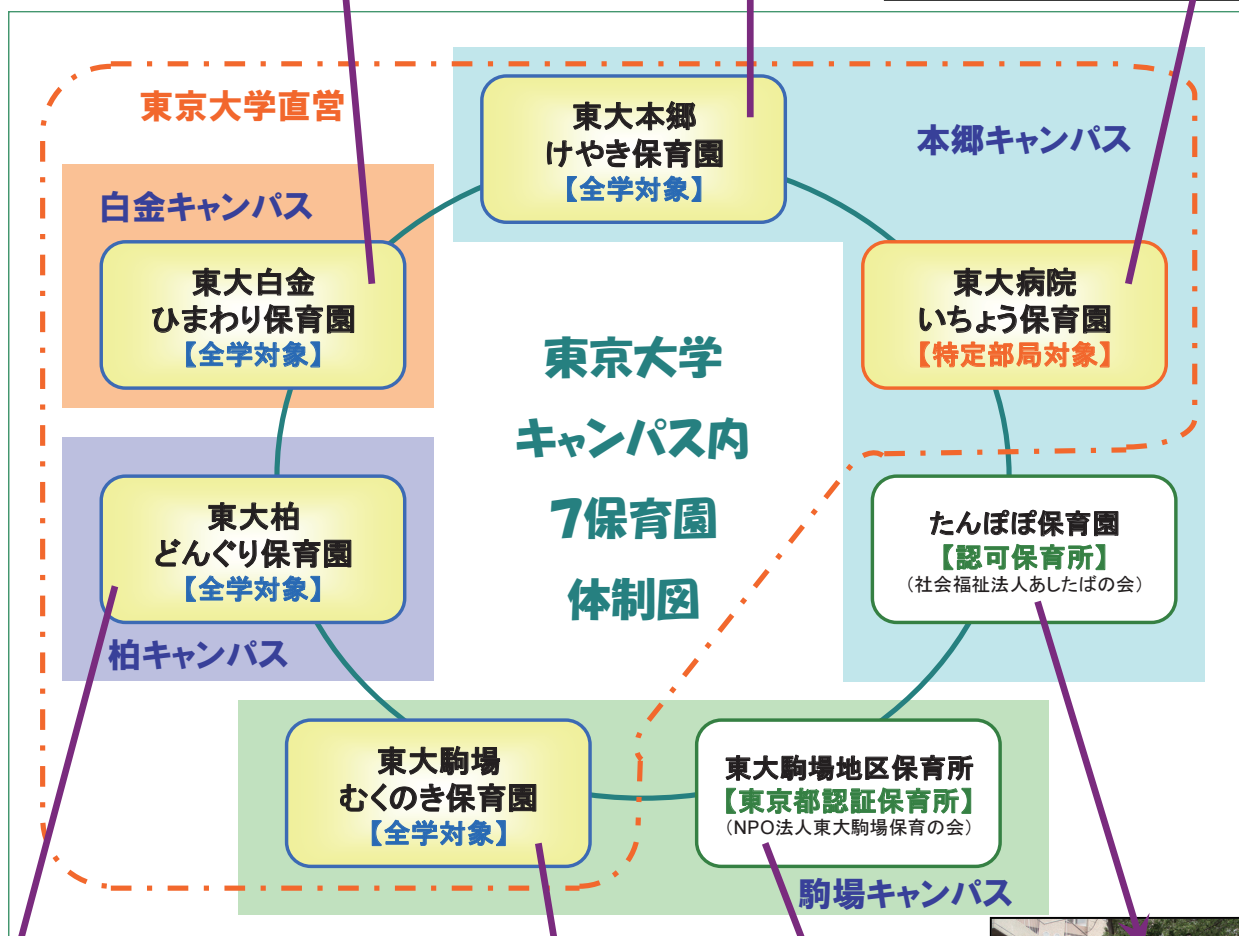
2008年4月開園

留学生のお子さんも多く受け入れ、国際色豊かな保育園です。近くには“けやき”通りがあります。(対象年齢:6週～3歳児未満)



2007年4月開園

医学部附属病院職員のお子さんをお預かりしています。(対象年齢:8週～就学前)



2008年12月開園

建築やシックハウス対策等、柏キャンパスの研究成果を活用して建てられました。周辺にはくぬぎ等“どんぐり”の実がなる樹が沢山あります。また、広い縁側が特徴です。(対象年齢:6週～就学前)



2008年12月開園

もともとあった“むくのき”を囲むように口の字型に建てられました。陽のたくさんあたる暖かな保育園です。(対象年齢:6週～就学前)







## 世界の主な大学の保育施設の設置状況

大学名	施設数	利用対象者
ハーバード大学(米)	6	地域住民も可
ケンブリッジ大学(英)	5	一部学生も可
オックスフォード大学(英)	7	地域住民も可
マサチューセッツ工科大学(米)	4	教職員、学生
エール大学(米)	6	教職員、学生
スタンフォード大学(米)	6	一部教職員、学生
カリフォルニア工科大学(米)	1	教職員、学生
カリフォルニアパークレー校(米)	2	教職員、学生

(注) 東大が各大学のホームページから調査(2008年10月)

東京大学のキャンパス内には、全部で7つの保育園があります。

本郷キャンパス内のたんぽぽ保育園(認可保育所)および駒場キャンパスの東大駒場地区保育所(東京都認証保育所)は、従来から東大の教職員や学生のお子さんを数多く受け入れてきました。

それに加えて、2007年4月に東大病院の職員を対象とした「東大病院いちょう保育園」が開園しました。これにより看護師や女性医師が出産のために退職することが少なくなりました。また、2008年には、男女共同参画室が中心となって整備を推進してきた東大全部局の教職員や学生を対象とした保育園が次々に開園しました。「東大本郷けやき保育園」(4月)、「東大駒場むくのき保育園」(12月)、「東大柏どんぐり保育園」(12月)が新設され、さらに白金キャンパスの医科学研究所および附属病院の職員対象であった臨時授乳室は新園舎に建て替えられ、定員も拡大して、2008年10月より全学対象の「東大白金ひまわり保育園」として再スタートしています。

短期間にこれだけの学内保育園が一気に整備された背景には、東京大学の次世代育成対策支援および男女共同参画の推進があります。

特に学内直営の4つの保育園については、単に教職員の福利厚生を目的としているのではなく、大学の戦略上、世界各地から優秀な研究者を獲得するため、あるいは東京大学における優秀な女性研究者を育成するために必要不可欠なインフラであると位置づけられています。世界のトップ大学には、キャンパス内に複数の保育施設を保有しており、育児と研究の両立を支援する環境が整っていることも珍しくありません。7保育園体制により、東京大学は国際的にもトップクラスの魅力的な研究環境を整備したと言えるでしょう。

学内保育園は、留学生や大学院生の利用率が高く、「認可保育園に申請したが、学生の優先順位は低いため入園許可されなかった。学内保育園のおかげで研究に復帰できた。」という声も多く寄せられています。

2008年度には、キャンパス内の複数の保育園において、質の高い同等の保育を提供するために「東京大学保育園運営委員会」が発足しました。委員長には秋田喜代美教育学研究科教授が就任し、保育施設規則やガイドラインの策定、入園者の選考や保育園運営に関わる様々な事項について、審議・決定を行っています。また、学内直営の各保育園には、具体的な運営や管理に関わる事項の審議や実施を担当するために、保育園運営小委員会が設立され、それぞれの事務局も設置されました。

2009年3月26(木)日には、東大のキャンパス内にある7保育施設全ての施設長と保育園に関わる教職員が集まり、第1回連絡会が開かれました。各園の現状報告や積極的な意見交換が行われ、今後は保育園間の連携や協力を強化すること等が提案されています。



【連絡会終了後の懇談会】  
本郷けやき保育園の園児、保護者との交流  
(2009年3月26日)

【読売新聞】  
(2008年6月22日)



【日本経済新聞】  
(2008年7月19日)



【柏市民新聞】  
(2009年1月9日)



問合せ先  
男女共同参画オフィス  
113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 本部棟9階  
TEL: 03-5841-0291(内線20291)  
Email: oge@adm.u-tokyo.ac.jp  
URL: <http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

# NEWS

## 一般ニュース

### 本部総務グループ

#### 山田一郎副学長の就任

一般

平成21年5月1日付で就任された山田一郎副学長の略歴、および、就任にあたっての挨拶を以下のとおり、掲載します。



副学長  
山田 一郎

昭和49年3月 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了  
昭和49年4月 日本電信電話公社(現NTT)、武蔵野電気通信研究所入社  
平成7年2月 NTT境界領域研究所、通信エネルギー研究部長  
平成12年7月 NTT生活環境研究所長  
平成14年7月 東京大学大学院工学系研究科 教授  
平成21年5月 副学長  
専門分野：生活環境情報工学  
研究内容：マイクロ・ナノセンサ、生体環境センシング、感性コミュニケーション

## 就任にあたって—環境安全担当—

このたび、5月1日から、環境安全担当の副学長を務めることになりました。

7年前に東京大学に教授として赴任する前には、長らく企業の研究所におりましたので、このような企業での研究マネジメントの経験も活かして、環境安全の取り組みを実効のあるものにしていきたいと考えています。

現在、環境安全体制の問題点を洗い出していますが、一つは、役割がいろいろな部署に分散していて、業務のスピードが上がらないことです。東京大学の環境安全の体制は、国立大学法人化を機に足早に整備されたものですから、一度見直して、将来を見すえた体制に仕上げていく必要があると思います。

もう一つは、こちらの方が問題かもしれませんが、大学構成員の環境安全に関する意識が企業に比べるとまだまだ低いことです。これでは、いくら体制を整えても実効が望めません。大学の使命は教育と研究ですので、ややもすると環境安全は優先順位が落ちてしまいがちですが、環境安全がしっかりと担保されないと、教育・研究どころではなくなってしまいます。すべての大学構成員がこのことを自覚することが重要ですので、これを促すために、いろいろな方策を考えていかなければと思っています。

環境安全について、社会の目は厳しく、大学だからという甘えは許されません。東京大学の教育や研究を支えるに相応しい環境安全体制とすべく、環境安全本部や環境安全研究センター、さらには各部署の安全衛生管理室の方々とも協力して、取り組んでいきたいと思っています。ご協力をよろしく申し上げます。

### 本部総務グループ

#### 中期目標期間の業務の実績に係る評価結果が公表される

一般

文部科学省国立大学法人評価委員会は、3月26日(木)、第1期中期目標期間の業務の実績に係る評価結果を公表した。

今回の評価は、次期中期目標・中期計画の検討や次期中期目標期間における運営費交付金の算定に反映させることができるよう、中期目標期間の終了に先立ち実施されたものであり、東京大学が提出した各種報告書に基づき、平成16年度から19年度までの4年間の業務の実績を対象として実施された。

教育研究活動等については、独立行政法人大学評価・学位授与機構が専門的な観点から評価を実施した。同機構による評価では、中期目標の達成状況に関する評価結果に加えて、学部、研究科及び附置研究所等ごとに、教育・研究に関する現況分析結果が示された。



東京大学の評価項目ごとの評定は下表のとおり。

中期目標・中期計画の達成状況としては全体として概ね良好な評価結果を得ることができ、特に「社会との連携、国際交流等に関する目標」については、東京大学アントレプレナープラザを建設し、大学発ベンチャー推進の拠点として確立していること、リエゾンオフィス等の海外拠点の形成等により国際交流の拡大が図られていることなどが高く評価され、「非常に優れている」との評定を得た。一方、「その他業務運営に関する重要事項」については、入試問題の漏洩や附属農場の薬品管理の問題等の影響により、「不十分」との評定となった。

評価結果の詳細は、次のウェブサイトから閲覧できる。

■ [http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/d05\\_03\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/d05_03_j.html)

表：項目ごとの評価結果

項目	評定
教育研究等の質の向上の状況	
教育	4
研究	4
社会との連携、国際交流等	5
業務運営・財務内容等の状況	
業務運営の改善及び効率化	4
財務内容の改善	4
自己点検・評価及び情報提供	4
その他業務運営に関する重要事項	2

(凡例)

- 5：中期目標の達成状況が非常に優れている
- 4：中期目標の達成状況が良好である
- 3：中期目標の達成状況がおおむね良好である
- 2：中期目標の達成状況が不十分である
- 1：中期目標の達成のためには重大な改善事項がある

#### 本部人材育成グループ

#### 平成 21 年度新任教職員研修を開催

一般

4月9日（木）から10日（金）にかけて、安田講堂において平成21年度新任教職員研修が開催された。

本研修は、新任教職員が東京大学の構成員として必要な法令、規則等の基本的知識を取得することを目的とし、本学におけるコンプライアンスの徹底並びにFD・SDの取組みの一環として行われた。全学の新任の教員、職員を一同に会する研修としては本学初の試みとなり、9日は715人、10日は665人の参加があった。

研修の最初に行われた総長講話において、濱田純一総長は、新任教職員への歓迎の言葉とともに、自身も4月からの新任であることにふれ、「経済危機に陥っている現在、東京大学に求められていること、果たすべきことは学術支援と人材教育を通じて未来への確かな指針を示すことである」として本学の教職員の重責、誇りについて語られた。さらに、コンプライアンスの意義について

説かれ、「本研修では職務遂行上の基本的なルールを学び、今後の勤務においてはそれらのルールの長所は活かし、短所は改善するという『ルールの運用』を実践してほしい」と述べられ、参加者は熱心に聞き入っていた。



総長講話

本研修の講義内容は以下のとおりであり、研修の最後には講義内容の理解を図るための確認テストも実施された。限られた日程での多岐にわたる講義内容であったが、新任教職員が本学で勤務していく上での基礎的知識を集中して得られる有意義な機会となった。



会場の様子

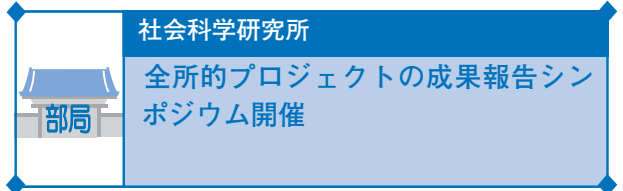
#### 『平成 21 年度新任教職員研修日程』

会場：安田講堂

○4月9日（木）9：35～17：45

- ・「総長講話」  
総長 濱田純一
- ・「高等教育政策、大学の概要」  
本部統括長（経営・企画系） 鈴木敏之
- ・「学務・学生支援」  
本部統括長（教育・学生支援系） 矢野由美
- ・「大学の財務」  
副理事 三浦 充
- ・「外部資金」  
本部外部資金戦略グループ長 石井康雄
- ・「物品・サービスの購入、出張経費の仕組み」  
本部調達グループ長 鈴木敏人
- ・「資産の管理」

- 本部資産経営グループ長 川口安名
- ・「会計システム、大学における消費税」
- 本部経理グループ副課長 水上順一
- ・「監査の視点から」
- 本部監査グループ長 鈴木成一
- 4月10日（金）9：30～17：30
- ・「産学連携」
- 産学連携本部知的財産部長 小蒲哲夫
- ・「就業規則・サービス」
- 本部労務・勤務環境グループ長 梶 正治
- ・「環境安全・防災」
- 環境安全本部 副本部長 小山富士雄、主幹 刈間理介、主幹・産業医 大久保靖司
- ・「メンタルヘルスとハラスメント」
- 学生相談ネットワーク本部 精神保健支援室長 佐々木 司、企画室長 亀口憲治、学生相談所長 倉光修
- ハラスメント相談所チームリーダー 矢野ゆき
- ・受講確認テスト



3月4日（水）、東京青山で公開シンポジウム「希望は終わらない」が開かれた。社会科学研究所の全所的な共同研究「希望学」の成果報告会である。

全所的プロジェクト「希望の社会科学」（希望学）は2005年に開始された。開始時にも青山の東京ウイメンズプラザで、シンポジウム「希望学宣言！」を開催し、希望と社会の関係を探求する新しい学際的共同研究のはじまりを宣言した。その同じ会場での、希望学の4年間についての成果報告である。開始時の「希望学宣言！」と同様今回も一般公開のシンポジウムで、関係者を含めて220余名の参加を得た。

プログラムは、プロジェクトのリーダー玄田有史教授の講演に始まり、コアメンバーであった宇野重規准教授、中村尚史准教授との鼎談、プロジェクト参加の研究者だけでなく調査対象であった釜石市、福井県の方々などもまじえたりレイトークの順で進められた。その間には釜石調査や希望学運営の様々な記録に関する映像が次々と流れ、学問追求の真剣さと同時に、自由闊達な雰囲気のもとで議論が飛び交う充実した報告会となった。

手探りで出発した希望学プロジェクトは、理論研究、

大規模標本分析、釜石市の地域調査の3本柱に収斂していく。理論研究のほうは、コーネル大学の文化人類学者等からの共同研究の呼びかけに応じて国際会議を開催したことから本格化し、hopeとはa wish for something to come true by action という定義に行き着いた。希望は単なる夢でなく、具体的な何かの実現に向けた努力と行動をとともなうものである、ということが含意されている。

日本の近代化・工業化を支えた製鉄の町、釜石市はかつて繁栄を極めたが、鉄冷え以後人口が半減し、経済が低迷している地域である。40人余がそれぞれ異なるテーマについて実施した対話重視のインテンシブな聞き取り調査では、地域振興と関連した希望の再生にとって、ローカル・アイデンティティ、ネットワーク、ビジョンの共有をもたらす対話の3つこそが重要であるという仮説を得た。

さらに二度にわたる全国アンケート調査を用いた分析からは、挫折経験が現在の希望の保有と正の相関があること、無駄なことをいとわない生き方が希望の保有にとって大切であることなど、重要な結果が導かれた。

3月4日の成果報告会では上記の点などが報告され、プログラムの最後を飾るレイトークでは、釜石調査の際の苦勞や楽しさ、地域の人々との交流、国際共同研究におけるコラボレーションの成果などが、20人を超える関係者の口から次々に語られた。「希望学研究は楽しかった。」「希望学の調査隊が来て話をするうちに元気が出た。」などの発言があり、笑いに満ちたシンポジウムを終えた。希望学の成果は4月から毎月1巻のペースで東京大学出版会から刊行され、世に問われることになる。全4巻のタイトルは下記の通りである。

第1巻『希望を語る—社会科学の新たな地平へ』

東大社研・玄田有史・宇野重規 編

第2巻『希望の再生—釜石の歴史と産業が語るもの』

東大社研・玄田有史・中村尚史 編

第3巻『希望をつなぐ—釜石から見る地域社会の未来』

東大社研・玄田有史・中村尚史 編

第4巻『希望のはじまり—流動化する世界で』

東大社研・玄田有史・宇野重規 編

（詳細は

[http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope/result/hope\\_books.html#no4](http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope/result/hope_books.html#no4))



「希望学」成果報告会開催風景



## 大学院総合文化研究科・教養学部



### 三鷹国際学生宿舎新入居学生の歓迎会行われる

4月11日（土）、三鷹国際学生宿舎において、新しく入居する留学生と学部一年生を迎えて、歓迎会が行われた。パーティーは宿舎敷地内の共用棟で行われ、スタッフを含め250人以上が参加し、食事やゲームを楽しんだ。

このパーティーは、大学院生のチューターによる院生会と、宿舎生全員により構成される宿舎生会の両者によって立案・企画されたものである。院生会と宿舎生会は共に三鷹国際学生宿舎の学生組織であり、前者は留学生のサポート、後者は宿舎生同士の交流を深めることを主な目的として活動している。



クイズで盛り上がる参加者

パーティーは、木村秀雄教養学部副学部長の挨拶に始まり、様々な催しが会を盛り上げた。院生会からはお好み焼きや炊き込みご飯などの料理が提供され、新入生に空腹を満たしてもらった。また、お寿司も提供することで留学生に日本の食事を堪能してもらった。宿舎生会からは国際学生宿舎にふさわしく英語を使ったクイズが出題され、参加者全員で競い合い楽しんだ。新しい環境で生活を始める新入居者にとって、このような催しは宿舎の友人たちと語らい、今後、連絡を取り合う手段として携帯のアドレスや写真などを交換する貴重な機会となるものである。今後彼らがお互いに交流を育んでゆく上での思い出深いひとときになったことであろう。また、歓迎会は国際交流という観点からも実り多いものとなり、留学生と日本人学生が積極的に英語や日本語によるコミュニケーションを図る様子が見受けられた。二時間の歓迎会は大盛況のうちに幕を閉じた。



月崎院生会幹事長による挨拶

## 医科学研究所



### 医科学研究所で骨髄移植記念植樹を実施

4月22日（水）、医科学研究所附属病院において、骨髄移植10,000例・さい帯血移植5,000例を記念した植樹（桜：福祿寿）が行われた。

これは昨年12月に日本の骨髄バンク第1例目の骨髄移植から15年目で10,000例、さい帯血移植は開始から11年で5,000例に達し、併せて15,000人の患者さんが生への希望をつなぐ機会を得るに当たって、その関係者への謝意を表すと共に、さらなる努力を誓い合うという趣旨で骨髄バンクを支援するボランティア団体が中心となって行っている全国リレー植樹である。

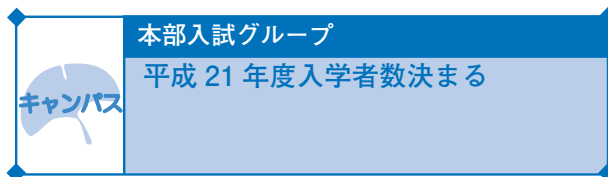
当日は、山下病院長、森本副病院長を始めとする病院関係者、移植経験のある患者さん、ボランティア団体が出席した。趣旨説明、関係者挨拶の後に参加者全員による植樹が行われた。



植樹を行う山下病院長



参加者による記念撮影



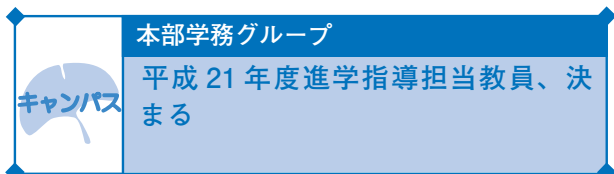
平成21年度新入生の人数は、次のとおりである。

科 類	入学定員	合 格 者 数			入 学 辞退者数	入学者数		定員外の入学者数		入学者 総 数
		一般選抜	特別選考 (第2種)	合 計		前期 等	後期	国費留学 生等	特別選考 (第1種)	
文科一類	2,961 (2,953)	401 (401)	8 (8)	409 (409)	0 (0)	409 (435)	43	3 (5)	0 (0)	455 (440)
文科二類		353 (354)	4 (4)	357 (358)	0 (0)	357 (363)	3	2 (3)	4 (4)	366 (370)
文科三類		479 (479)	4 (4)	483 (483)	1 (2)	482 (483)	0	8 (7)	1 (1)	491 (491)
理科一類		1,129 (1,129)	3 (4)	1,132 (1,133)	9 (5)	1,123 (1,165)	30	14 (26)	4 (4)	1,171 (1,195)
理科二類		547 (547)	3 (2)	550 (549)	3 (4)	547 (572)	21	2 (2)	3 (3)	573 (577)
理科三類		98 (90)	1 (0)	99 (90)	1 (0)	98 (90)		0 (0)	0 (0)	98 (90)
全 科 類		100 (100)	100 (100)		100 (100)	3 (3)				
合 計	3,061 (3,053)	3,107 (3,100)	23 (22)	3,130 (3,122)	17 (14)	3,016 (3,108)	97	29 (43)	12 (12)	3,154 (3,163)

(注) 1. ( )内は、昨年度を示す。

2. 国費留学生等の人数には、国費留学生の他に政府派遣留学生、日韓共同理工系学部留学生を含む。





教養学部（前期課程）から専門分野へ進学しようとする学生に対し、進学に関する諸問題について個人的な指導や相談にあたる今年度の進学指導担当教員は、次のとおりである。

平成 21 年度進学指導担当教員名簿

学部	進学指導担当学科	職 名	氏 名	連絡先	
法	全類	教 授	日比野 勤	03-5841-3257	
医	医学科	教 授	栗 原 裕 基	03-5841-3495	
	健康科学・看護学科	教 授	真 田 弘 美	03-5841-3419	
工	社会基盤学科	准 教 授	石 田 哲 也	03-5841-6102	
	建築学科	准 教 授	大 月 敏 雄	03-5841-6169	
	都市工学科	准 教 授	窪 田 亜 矢	03-5841-1845	
	機械工学科	教 授	中 尾 政 之	03-5841-6360	
	産業機械工学科				
	機械情報工学科				
	航空宇宙工学科	教 授	李 家 賢 一	03-5841-6595	
	精密工学科	教 授	保 坂 寛	04-7136-4616	
	電気情報工学科	准 教 授	熊 田 亜紀子	03-5841-7468	
	電気電子工学科	准 教 授	五 島 正 裕	03-5841-6675	
	物理工学科	教 授	今 田 正 俊	03-5841-6805	
	計数工学科	教 授	山 本 博 資	04-7136-3936	
		教 授	嵯峨山 茂 樹	03-5841-6900	
	マテリアル工学科	教 授	和 田 一 実	03-5841-7141	
	応用工学科	講 師	山 口 和 也	03-5841-7197	
	化学システム工学科	准 教 授	菊 地 隆 司	03-5841-1167	
	化学生命工学科	教 授	小宮山 眞	03-5841-7206	
	システム創成学科	准 教 授	大 澤 幸 生	03-5841-7012	
文	文学部全学科	准 教 授	唐 沢 かおり	03-5841-3853	
理	数学科	准 教 授	加 藤 晃 史	03-5465-7049	
	情報科学科	教 授	辻 井 潤 一	03-5841-4098	
	物理学科	教 授	福 山 寛	03-5841-4193	
	天文学科	教 授	尾 中 敬	03-5841-4261	
	地球惑星物理学科	教 授	ゲラー・ロバート	03-5841-4306	
	地球惑星環境学科	准 教 授	池 田 安 隆	03-5841-4574	
	化学科	教 授	川 島 隆 幸	03-5841-4338	
	生物化学科	教 授	横 山 茂 之	03-5841-4392	
	生物学科	動物学	准 教 授	越 田 澄 人	03-5841-4433
		植物学	教 授	寺 島 一 郎	03-5841-4465
		人類学	講 師	井 原 泰 雄	03-5841-4483
	生物情報科学科	教 授	伊 藤 隆 司	04-7136-3989	

応用生命科学課程				
農	生命化学・工学専修	准教授	日高真誠	03-5841-3082
		講師	刑部祐里子	03-5841-8134
	応用生物学専修	准教授	石川幸男	03-5841-1851
	森林生物学専修	准教授	松下範久	03-5841-5226
	水圏生命科学専修	教授	金子豊二	03-5841-5286
	動物生命システム科学専修	准教授	松本芳嗣	03-5841-5197
	生物素材化学専修	准教授	江前敏晴	03-5841-8199
	環境資源科学課程			
	緑地生物学専修	准教授	大黒俊哉	03-5841-5049
	森林環境資源科学専修	教授	鈴木雅一	03-5841-5214
	水圏生産環境科学専修	教授	古谷研	03-5841-5293
	木質構造科学専修	准教授	信田聡	03-5841-5251
	生物・環境工学専修	教授	大下誠一	03-5841-5362
	農業・資源経済学専修	教授	木南章	03-5841-5316
フィールド科学専修	准教授	大黒俊哉	03-5841-5049	
国際開発農学専修	准教授	山川隆	03-5841-7515	
獣医学課程				
獣医学専修	准教授	桑原正貴	03-5841-5391	
経	全学科 (経済学科、経営学科、金融学科)	准教授	大橋弘	03-5841-5511
養	超域文化科学科	准教授	木村忠正	03-5454-6239
	地域文化研究学科	准教授	井坂理穂	03-5454-6227
	総合社会科学科	教授	後藤則行	03-5454-6473
	基礎科学科	准教授	前田京剛	03-5454-6747
	広域科学科	准教授	齊藤晴雄	03-5454-6548
	生命・認知科学科	准教授	松田良一	03-5454-6637
育	総合教育科学科	教授	市川伸一	03-5841-3947
薬	薬学部	教授	堅田利明	03-5841-4750



最終回!  
サステナ、世界へ  
飛び立つ!!

# サステナな日々

～キャンパスから考えるサステナビリティ～

vol. 11

## ネットワークをつなぐネットワーク ～サステナビリティの構築におきて

本コラムも最終回。サステナビリティという言葉が少しでも身近になって頂ければという思いから、これまで学内における様々な取組みを紹介してきました。サステナブルな社会の構築は、一研究者、一大学、一國で達成しうるものではありません。一方で、大学に期待されている役割も大きいです。そうしたことを背景に、世界の学術ネットワークをつないで、この大きな課題に立ち向かおうという動きが、東京大学を拠点として起きています。

### ■ネットワーク・オブ・ネットワークス (NNs)とは

以前、本コラム(No.1375)でもご報告していますが、昨年、北海道洞爺湖サミットの開催を機に、歴史上初めての試みとしてのG8大学サミットが札幌にて開催されました。「グローバル・サステナビリティと大学の役割」をテーマに、大学サミット最終日には「札幌サステナビリティ宣言(SSD)」が採択されました。そこでは、サステナビリティ実現のための研究教育における大学の役割を改めて認識し、大学自らのサステナビリティの達成に向けての取組みを約束しています。サミット議長の小宮山総長(当時)から提案されたネットワーク・オブ・ネットワークス(Network of Networks, NNs)の構想が、重要なキーワードとしてSSDに盛り込まれています。

NNsとは何か? サステナビリティの領域は広範です。自然環境や社会経済システムにかかわる多様な問題が複雑に絡み合っていて、サステナビリティの実現には、総合的な問題解決のアプローチが求められています。学術融合の必要性が叫ばれて久しいですが、サステナビリティの分野こそ、新たな既存の研究学術分野を超えて、総合的に問題を解決することのできる統合的な枠組みが必要なのです。こうした観点から、これまで特定のテーマ毎に作られてきた既存の研究教育ネットワークを結びつけ、各ネットワークの実績・強みを活かした相互補完的な包括的連携ネットワーク(NNs)として統合していこうというのがNNs構想なのです。

### ■世界のネットワーク代表者らが集う ICSS2009

さて、サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)は、東大が企画運営を統括し、国内の12大学研究機関の連携によるネットワーク型研究拠点として、この3年間取組んできました。そんなIR3Sですので、NNs構想を率先して体現しないわけにはいきません。NNsの構築に向けて世界のサステナビリティ分野における有力学術ネットワークの代表者らを集めた国際会議ICSS(International Conference on Sustainability Science) 2009を2月5日～7日、山上会館にて開催しました。世界には欧米を中心にIR3Sのようなサステナビリティ分野のネットワークがいくつもあります。それぞれのネットワークが、他と連携してやっていく必要性を感じてお



〔本部研究機構等支援グループ 手塚・野村〕

本コラムは、今回で最後となりますが、東大のサステナビリティへの取組みに終わりはありません。東大構成員一人ひとりのサステナスピリッツがますます育つことを心より願っています。

問い合わせ先: 本部研究機構等支援グループ (内線21387)

### サステナ(サステナビリティ; 持続可能性)とは?

環境の世紀と呼ばれる21世紀の科学技術、経済システムを語る最重要のキーワード。地球社会を持続可能なものへと導くビジョンを構築するための基礎となる新しい超学的な学術が「サステナビリティ学」(sustainability science)である。

サステナビリティ学連携研究機構(IR3S) HPより  
<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/top.html>

このコラムは、サステナビリティ学を個人のライフスタイルやキャンパスと結びつけることを目指しています。

り、会議では、全体会・分科会ともに熱心に議論が交わされ、一回目の会議としては十分にその目的が達成されたと思います。参加者からの発案で、最終日には急ぎよ声明が取りまとめられました。次回ICSS2010はイタリアのエネルギー分野のネットワークであるCIRPSが幹事となり、ローマ大学で開催することも決定されました。継続されることにより、ICSSはネットワーク間の情報交換・意見交換のための重要なフォーラムへ成長することでしょう。また、東大IR3Sが主導で、アジアのネットワーク強化のために、新たにICSS-Asiaという枠組みを作り、プロジェクトベースの展開を計画しています。

多様な国から参加した研究者たちが一堂に会し、意見交換をしている姿は、確かにサステナビリティ学のネットワークが広がっていることを示していました。このネットワークが確固たるものとして構築され広がっていくことが、サステナビリティというグローバルで複合的な課題を解決する第一歩につながるのだと期待しています。

### ■会議運営から考えるサステナ&ネットワーク■

ICSS2009の運営担当職員の一人として外国人研究者の招聘と食事等の手配を担当し、世界のサステナビリティ学のネットワークを結んだ高次のネットワークを作ろうと実践している姿を身近に感じました。

会議には総勢160名が参加し、欧米のほか中国・インド・南アフリカなど20カ国以上から約50名の外国人研究者の参加がありました。招聘にあたり、フライトの手配やスケジュールの調整、必要に応じビザの書類を作成するなど、細かい点をフォローしていくのは大変でしたが、個々に対応することにより、参加国の多様性や各国の文化・習慣の違いに気を配る必要性を感じ、ネットワークの広がりを体感できました。また、国際会議では、宗教上の制約やベジタリアン等に配慮した食事手配が求められますが、ICSSではそれに加えて、LCA(Life Cycle Assessment)に配慮しました。用意する水やスナックなどは可能な限り日本製のものを手配し、より環境負荷の少ない製品を選びました。現在、日本が豊かな食文化を実現できているのは、輸入に拠るところが大きいのも事実です。すべてを日本製で徹底することは難しいですが、ペットボトル1本からこだわりをもって選ぶのも、サステナビリティの会議担当者



の心構えとして必要だと思っています。(の)

## 平成20年度TLF研修プログラム 修了式を行いました

### 1年間の研修を終え、各自治体へ

産学連携本部にて1年間の研修活動を続けてきた平成20年度テクノロジー・リエゾン・フェロー（TLF）研修生5名がすべてのカリキュラムを修了し、3月27日（金）に行われた修了式にて藤田隆史産学連携本部長から、修了証書とともに「テクノロジー・リエゾン・フェロー」の称号を授与されました。

### TLF研修とは？

地方公共団体の関連職員向けに当本部が行う「産学官連携人材育成」事業です。平成21年度（第10期）までに全国の29自治体（都府県市区）から計59名の方が派遣され、フルタイムで研修を受けています。多くの方は研修後に、自治体の産学官連携のキーパーソン、地域の振興の要として活躍中です。なお、TLF修了生を母体として「東京大学地域振興研究会」が昨年設立されています。

### H20年度の研修内容（まとめ）

産学連携本部へのTLF研修事業の移管に伴い、平成20年度は研修カリキュラムをリニューアルしました。

- (1) 講義（240時間）：産学連携に関する基礎知識、先端科学技術関連知識など。科学技術交流フォーラムへの参加も今年度は5回。
- (2) 実習：UCRプロポーザル（東京大学の教員からの共同研究提案・問合せウェブサイト）に基づく産学連携共同研究創出支援。教員へのインタビューや企業とのマッチング活動を通じたOJT。
- (3) 個別活動：派遣元自治体における課題等、各人がテーマを設定し、教員の指導を受けながら6ヶ月活動。

### H21年度もさらに充実して研修開始

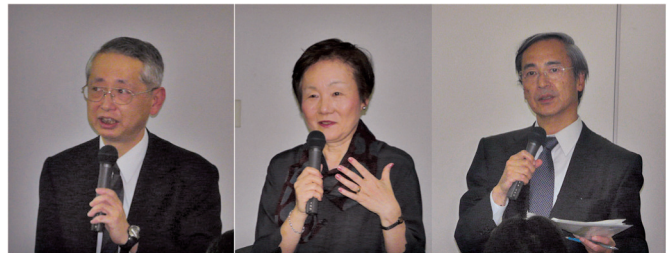
4月からは新たに6名の研修生を迎え、**地域の振興に関する講義カリキュラムの新設、Proprius21等**、東京大学独自の産学連携創出スキームを活用した高度な実習、など、さらに新要素を加えて展開中です。



平成20年度TLF修了生5名(当本部研修担当教員とともに)

連絡先：産学連携本部（本部産学連携グループ）  
電話：内線22857（外線03-5841-2857）  
ホームページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

## 東京大学産学コンソーシアム 「ジェロントロジー(老年学)」発足



写真上：左から、鎌田実教授 秋山弘子特任教授、辻哲夫教授  
写真下：会場では活発な質疑応答が行われた

### 第1回ワークショップ始動

4月22日（水）15時より、産学連携本部2F大会議室にて、第1回産学コンソーシアム「ジェロントロジー」ワークショップが開催されました。主査の鎌田実教授（高齢社会総合研究機構）の挨拶の後、秋山弘子特任教授（高齢社会総合研究機構）より「超高齢社会の課題と可能性」、辻哲夫教授（高齢社会総合研究機構）より「日本の挑戦—未曾有の超高齢社会に向けて」をテーマに問題提起がありました。会場には60名近い参加者が集まり、1時間以上も活発な質疑応答が行われました。特に秋山特任教授が挙げられたサクセフル・エイジング（病気や障害がなく、人生への積極的関与があり、高い身体・認知機能を維持している）、辻教授が挙げられた在宅療養支援のためのコミュニティ作りに関心が集まりました。19時からは山上会館にて交流会が開催されました。参加された方々が積極的に名刺交換や議論を展開し、有意義な場となりました。

### コンソーシアム事業とは？

産学連携本部（本部長：影山和郎）が、4月から発足した高齢社会総合研究機構（機構長：鎌田実）の協力の下で、企業約30社（海外企業4社含む）と共同で実施する事業です。1年目は、20年後の社会像を生活目線からと、国レベルでの実現可能性という視点から複眼的な立場でイメージ化していくことを目標とし、2年目は複数のグループに分かれ、それぞれ議論を深めながらロードマップを構築します。月1回程度の定例会と年2回の合宿や見学会などを実施していくことを予定しています。最終的には成果を社会へ発信し、政策提言なども行っていきたいと考えています。

DUCR

検索







## ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No.18



### メルマガ会員3000人突破！



おかげさまで東大ナビは、この4月をもって隔週発行のメルマガ登録者数が3000人を突破致しました！

今年度もご提供する教育イベント情報や、スタッフからのお勧めコンテンツ、メルマガ会員へのクーポンなど、より充実したサービスを提供して参ります。

今年度も東大ナビを、どうぞよろしくお願い致します！

東大ナビではこの春より「東大ナビ開花宣言！」キャンペーンを進めております。学内各所で新しいポスターなどご覧いただくかもしれません。今後とも東大ナビの活動に、是非ご注目下さい！



### 春季キャンペーン実施！

東大ナビでは、4月1日（水）、2日（木）に駒場キャンパスにおいて、新生を対象とした春季キャンペーンを行いました。入学諸手の会場にブースを設営し、新生に東大ナビの紹介を行いました。

加えて当日、東大ナビのブースにて、QRコードを使ったキャンペーンを実施しました。このキャンペーンに応募し、その場で配布した東大ナビはがきを受け取った新生の中から、抽選で100名に、東大ナビオリジナルタンブラーがプレゼントされます。5月中旬には駒場キャンパスにて、当選者にタンブラーを配布する予定です！

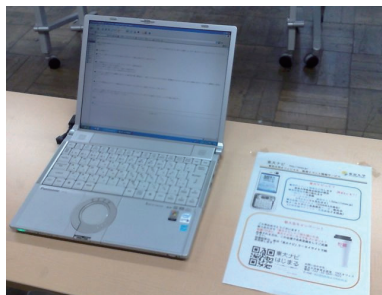


(写真左)

ブースではQRコードを使って、多くの新生がオリジナルタンブラーが当たるキャンペーンに応募しました

(写真右)

当日は携帯電話を持たない新生にもあわせ、PC用のメールアドレスも登録できる専用のPCも用意しました



### 東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メルマガで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。

是非、東大ナビをご活用ください！



東大ナビ  
はじまる

ケータイでお得なイベント情報をGET!

詳しくは utnav.jp にアクセス。

または mail@utnav.jp に空メール!

東大大学 教育企画室



### イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jp に空メール送信！

- この記事のQRコードから
- mail@utnav.jp宛てにメール送信
- 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PCどちらからも登録可能



返信メールから登録画面に入力！

- ご所属
- 性別・年齢など



登録完了！

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET!



### イベントを宣伝したい方

教育企画室TREEオフィスまで！

- 内線；27823（重田）
- メール；info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス；本郷キャンパス 第二本部棟403号室

# ワタシのオシゴト

第39回

Rings around the UT

柏地区事務部新領域担当課総務係

三浦 勝正さん

## インタープリターズ・ バイブル

vol. 22



科学技術振興調整費新興分野人材育成 科学技術インタープリター養成プログラム

### 「30回噛め！」

山科直子

科学技術インタープリター養成プログラム 特任教授

科学技術インタープリター養成プログラムが、「食」を考える東京大学・KIRINパートナーシッププログラムの活動にも参加するのを記念(?)して、我が身の食生活を振り返ってみたい。

栄養のバランスやカロリーはもちろん、食材の産地や添加物にもそれなりに気を使い、料理の腕も悪くないと自負してはいるのだが、その腕は酒のつまみを作るときぐらいにしか振るわれていない。というか、つまみあつての酒、高級フランス料理だって、相性のいいワインと食すればこそであって…酒ではなくて食事の話でした。失敬。

酒のつまみ以外の献立の手抜き加減は置いて、このところ、一口食べたら30回噛む、というのをやってみている。噛むことで、脳を刺激して頭が良くなり、ダイエット効果もあり、顔の骨格を鍛えて滑舌が良くなって、唾液分泌を促して味覚も発達する、などなど素晴らしいことだらけだというのだから、やらない手はない。

そんなお気楽な気持ちで始めてはみたものの、回数を数えながら噛むのはなかなかしんどい。ぼんやり食べているとすぐ忘れてしまうし、仕事しながらとか、誰かと一緒のときは、最初の数回から先はもうわけがわからなくなってしまふ。そしてなにより、30回も噛み続けられる食べ物は意外と少ない。豆腐のようなもともと噛みごたえのない食品もあるし、麺類をいつまでもモグモグするのは鬱陶しい。とにかく「食べる」行為を素通りできなくなってきた。

だからといって敢えて繊維質の多い肉や野菜ばかりを選ぶのもなんだかなあ、と思わなくもないが、噛むほどに味や食感が変化していくのを楽しめるのは、文句なしにこういった食材だ。食べた瞬間にお口の中でとろけてしまうステーキや、1日分の野菜がまるごと入ったジュースも好きだけれど、噛むことは、体の働きや食の問題から文化まで様々な考察を促してくれる。幸い、噛んでいるうちにどんどんまざる食べ物にもまだ出会っていないので、歯が丈夫なうちはこの「噛む食事」を続けてみようと思っている。

…とまあ、今更ながら自分で自分を食育しているところですが、半年もすれば、天才的頭脳を持ち、ナイスバディで滑舌正しく、味にうるさい、そんなラプリーな私になっているかもどうしましょ。

★科学技術インタープリター養成プログラム

URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

### 柏キャンパスに来てみませんか？



一応、仕事してますよ！！

ちわッス。皆さんしっかり働いていますか？ 私は毎日、睡魔と格闘しながら仕事に明け暮れています。(笑)

私は現在、柏地区新領域担当課総務係に所属し、主に研究科内会議の運用を任されています。

この仕事がくせ者で、会議の準備、打合せはまだ良いのですが、会議への出席及び会議後の議事録作成中は常に睡魔と格闘しています。

そんな睡魔を誘うもう一つの要因が、昼の運動です！！ 柏キャンパスは厚生施設や環境が充実していて、毎日昼は運動(サッカーやテニス等)をしています。おかげさまで睡魔は襲ってきますが、ストレスはありません！！

皆さんも是非一度は柏キャンパスに異動希望を出してみたいかがですか？ 現に私は、8年柏キャンパスにいますけどね。。。



昼、相手してくれる皆様です(笑)

得意ワザ：木登り

自分の性格：良い加減(いいかげん……)

次回執筆者のご指名：小久保裕之さん

次回執筆者との関係：サッカーでのお友達

次回執筆者の紹介：好青年



# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

政策ビジョン研究センター

#### 国際シンポジウム：イノベーションにおける競争と協調 一次世代の特許システムを考えるー

今日、イノベーションの様態は、オープン化、グローバル化、サイエンスリンケージの上昇（学術と産業技術の接近）、新興国の台頭等、世界的にみて大きな構造変化を遂げています。こうしたダイナミックな構造変化と比べて、現行のナショナル・イノベーション・システムは変革が遅れており、結果として、必ずしも、イノベーション促進的なものとはなっていないのではないかとの議論があります。特に、特許制度については、イノベーションの質的な変化に加え、特許出願の量的な拡大もあって、各国制度の改革と国際協力の必要性が高まっています。

本シンポジウムでは、特許制度を中心に、「イノベーションを促す次世代の仕組み作り」について、産学官、内外の有識者の間での密な対話を行います。変化については、オープンイノベーションのように既に一定程度進展している要素に加え、IPS細胞を用いた治療や3Dインターネットの登場等、近未来で予想される変化も視野に置きます。それを踏まえ、改革の方向性やグローバルな協力課題について、一定のコンセンサスを形成し、「京都」の地から世界に向けて発信します。同時に、今後の制度改革を支える知的インフラとして欠かせない学術的な研究課題を特定することを目指します。

【日時】 6月11日（木）9：45～17：30（予定）／ 受付開始 9：15～

【場所】 京都大学 時計台記念館「百周年記念ホール」

【主催】 東京大学、京都大学ほか

【共催】 NEDO

【後援】 全国イノベーション推進機関ネットワーク協議会、京都工業会、日本知財学会

【事務局】 東京大学政策ビジョン研究センター

（協力：知的資産経営総括寄付講座、イノベーション政策研究センター）

※参加費無料・要事前申込み

※日英同時通訳付

HP: <http://pari.u-tokyo.ac.jp/>

【問い合わせ】

政策ビジョン研究センター

TEL: 03-5841-1708（内線 21708）

E-mail: [pari@pp.u-tokyo.ac.jp](mailto:pari@pp.u-tokyo.ac.jp)

### プログラム

#### 1. オープニング：

主催者挨拶： 京都大学総長 松本紘

東京大学理事・副学長 松本洋一郎

ホストシティ挨拶： 京都市長 門川大作

#### 2. セッション1：「イノベーション・システム改革に総括的な課題提起」

チェア： 森田 朗 東京大学政策ビジョン研究センター長・教授

特別講演： 鈴木隆史 特許庁長官

基調講演： DOMINIQUE GUELLEC OECD 科学技術局シニアエコノミスト

講演： 坂田一郎 東京大学政策ビジョン研究センター教授

#### 3. セッション2：「イノベーション戦略の変遷と知的財産権制度」

講演： 渡部俊也 東京大学先端科学技術研究センター教授

講演： PAIK SABER IBM Asia Pacific Assistant General Council

講演： YUN SUNHEE 漢陽大学校法科大学教授

講演： 宗定勇 京都大学産官学連携センター特任教授

講演： 吉野幸夫 榊村田製作所知的財産部部长

パネルディスカッション

#### 4. セッション3：「近未来のイノベーションとそれに対応した知的財産権制度のあり方」

講演： 寺西 豊 京都大学産官学連携センター教授

講演： 杉光一成 金沢工業大学知的財産科学研究センター長・教授

講演： 小田哲明 大阪大学工学系研究科特任准教授

講演： 玄場公規 立命館大学テクノロジーマネジメント研究科教授

講演： 柴田尚樹 東京大学工学研究科イノベーション政策研究センター助教

パネラー： DOMINIQUE GUELLEC OECD 科学技術局シニアエコノミスト

パネルディスカッション

## 5. クロージング / 総括と京都からの提言：

議論の総括： 渡部俊也 東京大学先端科学技術研究センター 教授

クロージング： 堀場雅夫 京都大学総長顧問、全国イノベーション推進機関ネットワーク協議会会長

# 募集

## 募集

国際連携本部 AGS 推進室

### 平成 21 年度東京大学 AGS 研究会研究課題の募集

東京大学、マサチューセッツ工科大学 (MIT)、スイス連邦工科大学 (ETH)、チャルマーズ工科大学による AGS (Alliance for Global Sustainability) は地球環境の保全という制約条件下で持続的な発展を求めて現実的な方策等の提言を行う共同研究を推進している国際パートナーシップです。スタートから 13 年を経過し、2006 年より第 3 期活動を進めています。第 3 期においては各大学が地域の活動により一層力を入れるという方針のもと、東京大学 AGS 研究会ではこれまで以上にアジアでの活動を推進し、取り分け中国、韓国、東南アジア諸国、インドのサステナビリティに関わる研究・取り組みを強化し、これらの国を代表する大学・研究機関との連携を推進しています。

このたび東京大学 AGS 研究会では、昨年と同様に Full Project と Seed Project の 2 種類について平成 21 年度の研究課題を募集いたします。アジアを視点に置きながら、Full Project については、AGS の重点分野である水、食糧、エネルギー、都市の未来、Mobility、リスクマネジメントなどに関する研究課題の他に、持続可能性を支える文化の多様性や持続可能な社会と Gender の役割などの新しい研究課題についても研究基金を配分いたします。また、将来重要性が期待される Seed 的な研究課題 Seed Project についても研究基金を用意いたします。特に今まで応募されていない新しい方の応募、新しいアイデアに基づいた研究課題の提案をお待ちしています。

#### 1. 研究課題応募に際しての留意点

①サステナビリティに関する研究プロジェクトとし

て採択されることを目指す研究であること。

② Full Project は学際性、国際性、社会連携 (注 1) のいずれか一つ以上を満たすものであること。

③研究課題用の応募用紙を用いる (項目 2 を参照)。

④一件当たり Full Project は年間 200 万円以内、Seed Project は 50 万円以内の研究助成基金を配分する予定。

⑤研究代表者は本学教員であることが必須ですが、共同研究者として研究員、大学院生が参画できます。助成基金の配賦は秋以降となり、実質上研究期間が平成 22 年度にかかりますので、来年 3 月に退職される教員の方は研究代表者となられることをご遠慮ください。

⑥海外で実施される Technical Meeting など AGS が関与する会議で重要と認められた会議に参加する場合の旅費は別途予算として計上準備する予定ですので、本年度の研究課題申請の際には上記会議への参加費用の計上は必要ありません。

⑦採択されました研究課題の研究代表者の方には以下の義務を負っていただきます。いずれもその時期になりましたらお願いの連絡をいたします。

- ・ 2010 年 12 月ごろに開催する中間報告会での口頭発表 (15 分間程度)
- ・ 2011 年 6 月ごろまでに 5 - 6 ページの報告書提出
- ・ 会計報告

(注 1) 社会連携：技術や制度の社会における実践・普及を念頭に置き、研究プロジェクトにおいて社会の様々な関係者と連携すること。

2. 応募ご希望の方は応募用紙をお送りいたしますので下記まで連絡をください。
3. 応募用紙にご記入の上、7 月 3 日 (金) までに e-mail でご提出をお願いいたします。

#### 応募用紙依頼、課題申請書の提出、問合せ先

戸上 雄司 (とがみ ゆうじ)

東京大学 AGS 推進室

内線：21548

E-mail：togami@ir3s.u-tokyo.ac.jp



# お知らせ

## お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第520（5月1日）号の発行  
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第520号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

山本光夫：環境とエネルギーの問題を俯瞰的にとらえる  
石井直方：スリランカ政府首脳らが駒場を表敬訪問  
——加圧トレーニングの高度先進医療国際プロジェクトに関連して

〈教養学部 教員紹介 2009（2）〉：  
英語／ドイツ語／フランス語・イタリア語／中国語・朝鮮語／ロシア語／スペイン語／古典語・地中海諸言語／法・政治／経済・統計／社会・社会思想史／国際関係／歴史学／国文・漢文学／文化人類学／アメリカ太平洋地域研究センター

〈本の棚〉

嶋田正和：稲葉寿編著『感染症の数理モデル』  
感染症はどのように理解すればよいのか？

〈後期課程案内〉

木村忠正：超域文化科学科  
「学際的専門性」を開拓する  
石田勇治：地域文化研究学科  
発展する地域文化研究  
複眼的な視座で地域文化から世界へ  
内田隆三：総合社会科学科  
現代社会の可能性を探究しよう！  
——真の教養人、国際人を目指して  
遠藤泰樹：基礎科学科  
新たな視点のもとに学ぶ自然科学  
松原宏：広域科学科  
自然界や人間社会の複合的問題に挑む  
村田昌之：生命・認知科学科  
駒場発の独創的な生命科学の潮流を創る

〈本郷各学部案内・1〉

川出敏裕：法学部で何を学ぶか  
清水孝雄：医学部に進学するみなさんへ

堀井秀之：夢をかなえる工学の魅力

〈理数系辞典案内 2009〉

山本昌宏：数学  
玉井哲雄：情報  
下井守：化学  
加藤雄介：物理学  
松田良一・和田元：生物学／理科系共通  
蜂巢泉：宇宙地球

古城佳子：柴田寿子先生を悼む

オルガン委員会：第116回、第117回オルガン演奏会

## お知らせ

本部学生支援グループ

東京大学の海の家・山の家「保健体育寮（スポーティア）」夏期特別開寮のお知らせ～『今年の夏休み』スポーティアでリフレッシュしてみませんか？～

本学に、抜群の立地条件を誇る宿泊施設『保健体育寮（愛称スポーティア）』があるのをご存知ですか？

スポーティアは、本学の学生・教職員、卒業生及びその同伴者が利用できる施設で、伊豆や山中湖など4箇所あり、目的に合わせて選ぶことができます。

西伊豆にあり、海水浴場まで0分の抜群のロケーションを誇るスポーティア戸田、※山中湖畔の避暑地でスポーツが満喫できるスポーティア山中、南伊豆にあり海水浴と温泉を満喫できるスポーティア下賀茂、乗鞍岳中腹にあり星降る夜空に思わず感激してしまうスポーティア乗鞍、とバリエーションも豊かにラインアップしております。特に乗鞍山麓の秘境・スポーティア乗鞍は夏期限定となっておりますので、「星に願い」をこの機会にいかがでしょうか。

※夏期開寮と同時に「山中寮内藤セミナーハウス」として新装オープンいたします。

研究室やサークルの合宿に、また、夏の旅行にお気軽にご利用ください。

利用の概要は下記のとおりです。詳細については、東京大学運動会ホームページを参照されるか、学生支援グループ体育チーム（運動会窓口）までお問い合わせください。

1. 夏期特別開寮期間及び受付開始日

(1) 夏期特別開寮期間

（宿泊は最終日前夜までとなります。）

・ スポーティア戸田：7月24日（金）～8月20日（木）  
・     〃     下賀茂：7月31日（金）～8月21日（金）  
・     〃     山中：7月29日（水）～8月28日（金）  
・     〃     乗鞍：7月28日（火）～8月21日（金）

(2) 受付開始日

・ 学生、教職員のみ利用の場合 … 5月25日（月）～

- ・学生、教職員とその家族・同伴者で利用の場合  
… 6月1日(月)～
- ・卒業生等とその家族・同伴者で利用の場合  
… 6月8日(月)～

## 2. 宿泊費(1泊)

- ・学生(附属学校生徒を含む)  
… 1,500円(山中寮:2,000円)
- ・大学院生・教職員  
… 1,800円(ク : 2,500円)
- ・卒業生・同伴者(4歳以上)  
… 2,000円(ク : 3,000円)

## 3. 申込場所・時間

本郷:第二食堂二階 運動会受付窓口

月曜日～金曜日 9:30～17:00  
(但し、宿泊費の支払いについては、  
16:00までをお願いします。)

駒場:教養学部等学生支援課

(アドミニストレーション棟8番窓口)

月曜日～金曜日 9:00～16:30

## 4. 問い合わせ先等

本部学生支援グループ体育チーム

(内線:22509～22511)

東京大学運動会ホームページ

<http://www.undou-kai.com/>

## お知らせ

### 情報基盤センター

### “分野別文献の探し方ガイダンス”開催のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

6月は、総合・自然科学・人文社会科学の各分野の主なデータベースについて、データベース提供元から講師を招いて、実習形式の講習を行います。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。

### ●申込方法:

予約優先です。先着順ですので、お早めに、下記のサイトからお申し込みください。席に余裕があれば、当日の参加もOK!

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

### ●会場:

【本郷】総合図書館 1階 講習会コーナー  
(定員12名)

### 【駒場】駒場図書館 地下1階 会議室

(定員24名) ※6/1、6/11、6/19、7/1のみ  
駒場図書館カウンター前に集合

### 【柏】柏図書館 1階

[6/25はセミナー室2 定員8名、6/30はコンファレンスルーム 定員24名(6/30は希望者先着8名まで備付PC利用可、PC持込も可)]

※6/9は柏図書館メディアホール(定員144名)、6/26は柏図書館セミナー室2(定員16名 希望者先着8名まで備付PC利用可、PC持込も可)に中継あり

### 【数理研】数理科学研究科棟2階 計算機室

(定員20名) ※6/15、16のみ

### ●参加費:無料

### ●コース内容とスケジュール:

#### ◆総合分野

(1) JapanKnowledge +

(百科事典、辞書、日本歴史地名体系など)

6/2(火) 15:00～16:00 【会場:本郷】

6/11(木) 13:30～14:30 【会場:駒場】

(2) Littel Navigator

(Web 情報資源と図書館情報資源の統合検索)

6/2(火) 16:15～17:15 【会場:本郷】

(3) ヨミダス歴史館(読売新聞記事)

6/3(火) 15:00～16:00 【会場:本郷】

6/11(木) 14:45～15:45 【会場:駒場】

(4) 朝日新聞記事データベース「聞蔵IIビジュアル」

(朝日新聞、AERA、週刊朝日、知恵蔵)

6/8(月) 15:00～16:00 【会場:本郷】

7/1(水) 14:45～15:45 【会場:駒場】

(5) 毎日 News パック(毎日新聞記事)

6/10(水) 13:45～14:45 【会場:本郷】

7/1(水) 13:30～14:30 【会場:駒場】

(6) LexisNexis Academic(世界の新聞、企業情報など)

6/12(金) 15:00～16:30 【会場:本郷】

(7) EndNote Web(文献管理・論文執筆支援ツール)

6/26(金) 16:30～17:30 【会場:本郷】 (※)

6/30(火) 16:30～17:30 【会場:柏】

※6/26は柏図書館セミナー室2に中継あり

#### ◆自然科学分野

(1) Engineering Village(理工学分野)

6/9(火) 15:00～16:30 【会場:本郷】 (※)

※柏図書館メディアホールに中継あり

(2) MathSciNet(数学分野)(※)

6/15(月) 16:00～17:00 【会場:数理研】

6/16(火) 15:00～16:00 【会場:数理研】

※理学部数学科、数理科学研究科所属者優先

(3) SciFinder Scholar(化学・薬学分野)

- 6/17 (水) 15:00~16:30 【会場：本郷】  
 6/25 (木) 15:00~16:30 【会場：柏】  
 (4) Web of Science 自然科学系  
 6/19 (金) 14:45~16:15 【会場：駒場】  
 6/26 (金) 13:30~15:00 【会場：本郷】 (※)  
 6/30 (火) 13:30~15:00 【会場：柏】  
 ※6/26 は柏図書館セミナー室2 に中継あり  
 (5) BIOSIS Previews (生命科学分野)  
 6/26 (金) 15:15~16:15 【会場：本郷】 (※)  
 6/30 (火) 15:15~16:15 【会場：柏】  
 ※6/26 は柏図書館セミナー室2 に中継あり

#### ◆ 人文社会科学分野

- (1) Eighteenth Century Collections Online + GVRL  
 (18世紀英語圏刊行物)  
 6/1 (月) 13:30~14:30 【会場：駒場】  
 (2) Early English Books Online  
 (15-17世紀英語圏刊行物)  
 6/1 (月) 14:45~15:45 【会場：駒場】  
 (3) PIO/PAO (人文社会系雑誌記事)  
 6/3 (水) 16:15~17:15 【会場：本郷】  
 (4) eol (有価証券報告書、企業情報)  
 6/4 (木) 15:00~16:00 【会場：本郷】  
 (5) InfoTrac Custom (人文社会系学術雑誌)  
 6/5 (金) 15:00~16:00 【会場：本郷】  
 (6) Literature Resource Center with MLA + GVRL  
 (文学に関わる人物、作品情報など)  
 6/5 (金) 16:15~17:15 【会場：本郷】  
 (7) ASSIA / LLBA (応用社会科学・言語学分野)  
 6/10 (水) 15:00~16:30 【会場：本郷】  
 (8) Lexis.com (世界各国の法令・判例など)  
 6/12 (金) 13:15~14:45 【会場：本郷】  
 (9) Business Source Elite/SocIndex  
 (ビジネス・社会学分野)  
 6/18 (木) 15:00~16:30 【会場：本郷】  
 (10) Web of Science 人文社会科学系  
 6/19 (金) 13:00~14:30 【会場：駒場】  
 6/26 (金) 10:30~12:00 【会場：本郷】  
 (11) JSTOR (社会科学を中心とする学術雑誌)  
 6/22 (月) 15:00~16:00 【会場：本郷】  
 (12) PsycINFO / PsycARTICLES  
 (心理学分野)  
 6/23 (火) 15:00~16:00 【会場：本郷】  
 (13) CNKI (中国学術雑誌全文データベース)  
 6/24 (水) 15:00~16:30 【会場：本郷】

#### ● 問い合わせ：

学術情報リテラシー係  
 03-5841-2649 (内線：22649)  
[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)  
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

#### お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

#### 第117回オルガン演奏会

日時：6月12日(金) 18時30分開演  
 場所：駒場Iキャンパス 900番教室

オルガン演奏：椎名雄一郎  
 F・メンデルスゾーン (1809-1847)  
 プレリユードとフーガ ハ短調  
 J・S・バッハ (1685-1750)  
 「装いせよ、愛する魂よ」BWV653  
 F・メンデルスゾーン (1809-1847)  
 オルガン・ソナタ第2番ハ短調  
 J・S・バッハ (1685-1750)  
 パッサカリア ハ短調 BWV582  
 F・メンデルスゾーン (1809-1847)  
 アンダンテ ニ長調  
 F・メンデルスゾーン (1809-1847)  
 オルガン・ソナタ第3番イ長調

入場無料

主催：東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 オル  
 ガン委員会

問い合わせ：Tel 03-5454-6139 (駒場博物館)

#### お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部

#### 第36回 東京大学農学部公開セミナー

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領  
 でセミナーを開催します。無料で、どなたでも参加でき  
 ます。多くの方のご来場をお待ちしています。

第36回 東京大学農学部公開セミナー

『日本の食は安全か?』

司会：農学国際専攻 松本 安喜 准教授

「動物に潜む病原レンサ球菌について」

食の安全研究センター 関崎 勉 教授

「食の安全確保技術とその諸問題」

スクレイパー及び牛海綿状脳症を中心として」

応用動物科学専攻 小野寺 節 教授

「環境にとって安全な食とは」

農学国際専攻 小林 和彦 教授

「全体を通じての質疑応答コーナー」



日 時：6月20日（土）13：30～16：30  
場 所：東京大学弥生講堂・一条ホール  
東京都文京区弥生1-1-1  
地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩1分  
地下鉄千代田線「根津」下車 徒歩7分  
対 象：一般（どなたでも参加できます）  
定 員：300名（当日先着順、事前登録不要）  
参加費：無料  
問合せ先：東京大学農学系総務課 総務チーム  
総務・広報情報担当  
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1  
電話 03-5841-5484, 8179  
mail koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

※ 受講証を発行します。  
ご希望の方は、120円切手をご持参の上、  
当日受付でお申込ください。

主 催：大学院農学生命科学研究科・農学部  
共 催：（財）農学会

## お知らせ

### 男女共同参画室

#### キャリア・ガイダンス ～女性研究者を目指して！～

男女共同参画室では、2008年に続き女子学部生・大学院生を対象としたキャリア・ガイダンスを開催します。今年のテーマは、「研究者を目指して」です。日本を代表する本学の女性研究者お二人、および学内外で活躍する本学卒の若手女性研究者をお招きして、研究者を志したきっかけや研究者としてのキャリア形成、また研究の魅力について語っていただきます。どうぞ奮ってご参加下さい。

日時：6月27日（土）13：00～16：30  
会場：本郷キャンパス 工学部2号館213号室  
対象：学部生・大学院生  
定員：200名 参加費無料  
申込方法：詳細は下記URLをご覧ください。  
<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/>

#### 基調講演：

上野 千鶴子  
（大学院人文社会系研究科社会学研究専攻 教授）  
永原 裕子  
（大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 教授）

#### パネルディスカッション：

中野 由美子  
（国立感染症研究所寄生動物部 研究員）

中村 麗子  
（東京国立近代美術館美術課 主任研究官）  
木島 まどか  
（富士フイルム株式会社解析技術センター 研究員）  
横田 賀英子  
（科学警察研究所犯罪行動科学部 主任研究官）  
本間 典子  
（大学院医学系研究科細胞生物学・解剖学講座 助教）

主催：東京大学男女共同参画室  
協賛：工学部広報室、理学部広報室

	氏名	異動内容	旧（現）職等
(退 職)			
21.4.16	上原 誉志夫	辞 職	保健・健康推進本部准教授
21.4.30	井上 和男	辞 職	大学院医学系研究科准教授
21.4.30	鎮西 恒雄	辞 職	先端科学技術研究センター准教授
(採 用)			
21.5.1	阿部 郁朗	大学院薬学系研究科教授	
(昇 任)			
21.4.16	八木 洋憲	大学院農学生命科学研究科准教授	大学院農学生命科学研究科講師
21.5.1	玉造 潤史	情報システム本部准教授	大学院理学系研究科講師
21.5.1	渡部 徹郎	大学院医学系研究科准教授	大学院医学系研究科助教
21.5.1	鎌田 直人	大学院農学生命科学研究科附属演習林教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林准教授
21.5.1	影浦 峽	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科准教授
21.5.1	年吉 洋	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター教授	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター准教授

※ 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



# 自転車・バイク利用の登録はお済みですか？

4、5月は登録期間です

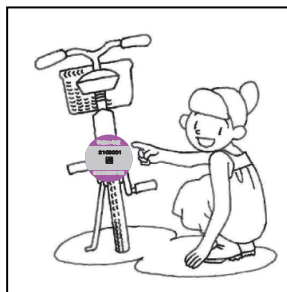
本郷構内(浅野地区、弥生地区を含む)で自転車・バイクを駐輪する場合は、許可証が必要です。平成21年4月より、許可証は有料となりました。本郷構内で、自転車・バイクを利用される方は、必ず、所定の手続きを行い、許可証の交付を受けてください。4、5月は登録期間です。登録がお済みでない方は、お早めにお問い合わせ致します。

## ■許可証の種類と料金

### 自転車駐輪許可証



(学生等)1,000円/年  
(教職員等)2,500円/年



車体の後ろの見やすいところに許可証を貼る！

### バイク駐車許可証



(教職員等、学生等)  
15,000円/年

## ■駐輪場の利用について

自転車・バイクを利用される方は、必ず所定の駐輪スペースを利用してください。自転車とバイクの駐輪場を明確に区分し、利用しやすい駐輪場を計画しています。また、来訪者用駐輪スペースを所定の場所に整備します。駐輪場は、サイン、白線引き等により表示をしております。快適なキャンパス環境を創出するためにも、決められたスペースに正しく駐輪しましょう。



詳細については、ホームページ(下記URL参照)又は、学内広報No.1384をご覧ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/fac04/h13\\_05\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/fac04/h13_05_j.html)

(問い合わせ先) 本部環境グループ 交通関係受付専用ダイヤル TEL:03-5841-0800(内線20800)

# 平成21年度 学内広報発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日	配布
1387	5月 28日(木)	6月 19日(金)	6月 25日(木)
1388	7月 1日(水)	7月 27日(月)	7月 31日(金)
1389	7月 28日(火)	8月 25日(火)	8月 31日(月)
1390	8月 28日(金)	9月 17日(木)	9月 28日(月)
1391	10月 1日(木)	10月 23日(金)	10月 29日(木)
1392	10月 29日(木)	11月 20日(金)	11月 27日(金)
1393	学生生活実態調査号		
1394	11月 25日(水)	12月 17日(木)	12月 24日(木)
1395	1月 6日(水)	1月 25日(月)	1月 29日(金)
1396	1月 29日(金)	2月 19日(金)	2月 25日(木)
1397	セクシュアル・ハラスメント調査特集号		
1398	2月 25日(木)	3月 19日(金)	3月 26日(金)

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)

【東京大学ホームページ】→【左下の学内広報アイコンをクリック】

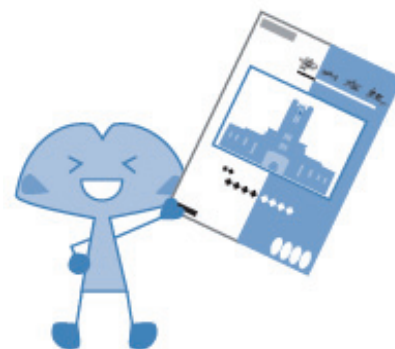
## 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム

TEL:03-3811-3393

内線22031

E-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp







# 「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

## 作成例

本部広報グループ

「キャンパスツアー」スタート！

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、五月祭期間や年末年始、入試期間を除く授業期間の土曜日と日曜日(10:00~12:00、14:00~16:00)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける

・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)

句読点は「、」「。」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

## 提出上の注意

### 1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。  
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

### 2. 締切日

HPで発行スケジュールを確認すること。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)  
トップページ>広報・情報公開>学内広報

### 問い合わせ先・提出先

本部広報グループ広報企画チーム  
TEL: 03-3811-3393(内線 22031)  
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、**その際はお問合せ願います。**

# Contents

## 特集

- 02 知の頂点は Diversity (多様性) から！～東京大学の男女共同参画活動～

## NEWS

### 一般ニュース

- 06 山田一郎副学長の就任  
06 本部総務グループ  
中期目標期間の業務の実績に係る評価結果が公表される  
07 本部人材育成グループ  
平成 21 年度新任教職員研修を開催

### 部局ニュース

- 08 社会科学研究所  
全所的プロジェクトの成果報告シンポジウム開催  
09 大学院総合文化研究科・教養学部  
三鷹国際学生宿舎新入居学生の歓迎会行われる  
09 医科学研究所  
医科学研究所で骨髄移植記念植樹を実施

### キャンパスニュース

- 10 本部入試グループ  
平成 21 年度入学者数決まる  
11 本部学務グループ  
平成 21 年度進学指導担当教員、決まる

## コラム

- 13 サステナな日々 vol.11  
14 Crossroad 産学連携本部だより vol.42  
15 ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No.18  
16 インタープリターズ・バイブル vol.22  
16 Relay Column 「ワタシのオシゴト」 第 39 回

## ◆ 表紙写真 ◆

けやき保育園 (2 ページに関連記事)

[訂正]

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。関係部局および関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1385 (2009.4.23)  
52 ページ：一番下の行

(誤) ライフサイエンス研究倫理支援室ホームページ  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/office/lsres/index.html>

(正) ライフサイエンス研究倫理支援室ホームページ  
<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/office/lsres/index.html>

## INFORMATION

### シンポジウム・講演会

- 17 政策ビジョン研究センター  
国際シンポジウム：イノベーションにおける競争と協調 一次世代の特許システムを考えるー

### 募集

- 18 国際連携本部 AGS 推進室  
平成 21 年度東京大学 AGS 研究会研究課題の募集

### お知らせ

- 19 大学院総合文化研究科・教養学部  
「教養学部報」第 520 (5 月 1 日) 号の発行  
—教員による、学生のための学内新聞—  
19 本部学生支援グループ  
東京大学の海の家・山の家「保健体育寮 (スポーツィア)」夏期特別開寮のお知らせ～『今年の夏休み』スポーツィアでリフレッシュしてみませんか?～  
20 情報基盤センター  
“分野別文献の探し方ガイダンス” 開催のお知らせ  
21 大学院総合文化研究科・教養学部  
第 117 回オルガン演奏会  
21 大学院農学生命科学研究科・農学部  
第 36 回東京大学農学部公開セミナー  
22 男女共同参画室  
キャリア・ガイダンス ～女性研究者を目指して!～

## 事務連絡

- 23 人事異動 (教員)  
24 巻末特別記事  
自転車・バイク利用の登録はお済みですか?

## 淡青評論

- 28 アンバランスのフラクタル

## 編集後記

前号の 4 月号は学内広報史上で恐らく最もページ数が多かったですが (86 ページ) 今回は 1 年でも最も薄い部類 (28 ページ) です。5 月も下旬になりいつの間にか新型インフルエンザが国内でも流行してしまいました。ドラッグストアではこども用ガーゼマスクしか見つけられず、自宅のマスクが切れた後は無防備にさらされますので、「タフ」な東大職員になり乗り切ります! イベントの多い季節でもありますので、イベントの無事と皆様の健康を願っています。(か)





七徳堂鬼瓦

## アンバランスのフラクタル

竜岡門を通過して構内に入り、バス通り沿いを歩いて職場へ向かうのが私のかつての通勤コースであったが、懐徳門ができてからは、門の前から構内のバス通りに至る小道を専ら利用している。その小道は、量こそ多くはないが、緑の木々に挟まれており、晴れた日などは束の間の爽やかさを味わうことができる。左手には、レンガ造りの昔ながらの建物が続き、次いで右手に広々とした日本屋敷が広がる。屋敷の奥には深々とした木々が、

その一部を覗かせており、趣がある。ところが、さらに進むと、天を見上げる程の巨大な近代的ビルが現れる。そこを過ぎると、一旦レンガ造り風の建物になるが、最後にまた巨大ビルとなり、バス通りに辿り着く。この巨大ビルの中では、多彩で、世界をリードする先端的研究が行われている。限られた空間の中でこれ程の機能を発揮するためには、建築上のアンバランスもやむを得ない。

その“アンバランス”について思いを巡らせてみると、一方では日本社会全体の構造から、他方では一人ひとりの人間の知識や思考の構造にまで、どのレベルにでも認められる傾向であるように思える。アンバランスのフラクタルとでも言えようか。ひょっとすると、細胞や分子のレベルでもそのようなことがあるかもしれない、などと空想してしまう。研究の世界では抜きん出た高さが要求されるのであるから、アンバランスになることは不可避であって、悪いことではない。私が気になるのは、教育である。教育すべき専門領域は多く、それぞれの領域の中に、高層建築のような興味を引くトピックが数多く存在する。このようなトピックについて話をするのは、話すほうも聞くほうも楽しい。しかし、それに終始してしまうと、増幅されたアンバランスが伝達されることになる。教育の本来の目的は、土台の構築、音楽でいう通奏低音のような部分をしっかりと築くことだろう。継ぎはぎだらけのアンバランスな教育になっていないか、自問する日々である。

上妻志郎（大学院医学系研究科・医学部）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

### 東京大学新型インフルエンザ対策専用電話の設置

濃厚接触者と認定され、保健所の指導を受けた学生・教職員等は、速やかに本学連絡先(下記参照)へご連絡下さい。また、自分が濃厚接触者ではないかという不安を持つ方は、居住地の最寄の保健所へご連絡下さい。

東京大学新型インフルエンザ対策専用電話(24時間対応)  
03-5841-1936(内線:21936)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No. 1386 2009年5月25日  
東京大学広報委員会

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学本部広報グループ  
TEL: 03-3811-3393  
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
http://www.u-tokyo.ac.jp